

目 次

開館20周年にあたって

例 言

■「土地の記憶」について……………	1	6. 災害と暮らし ……………	57
■長野盆地の農業水利と水環境 ……………	5	1) 災害と向き合う人々……………	57
1. 大地の営み (生活の舞台) ……………	9	2) 地すべりに襲われた村……………	60
1) 長野盆地と周辺の地形……………	9	7. 生活環境と信仰 ……………	65
2) 長野盆地の生い立ち……………	10	1) 災害と信仰……………	65
3) 長野盆地をつくった活断層と地震……………	14	2) 水を恵む神への信仰……………	71
2. 長野市域の植生の移り変わり……………	15	3) 山ノ神への信仰……………	78
1) 長野市の現存植生……………	16	8. 動植物が語る生活環境……………	80
2) ポーリングコアが語る長野の10万年……………	17	1) 里山の自然……………	80
3) 長野盆地の潜在自然植生を復元する……………	23	2) 水辺の自然……………	82
3. 生活環境の形成 ……………	27	3) 人里の自然……………	84
1) 最終氷期の生活環境……………	27	4) タンポポが語る生活環境……………	85
2) 後氷期の生活環境……………	28	9. 数字が語る生活環境の変貌……………	88
4. 生活環境の開発 ……………	34	1) 気象データと生活環境……………	88
1) 自然環境の移り変わり……………	34	2) 人間生活と環境の変化……………	90
2) 自然環境と人との関わり……………	38	3) 夜空の明るさと大気環境……………	94
3) 生活空間の開発……………	39	10. 目で見る長野盆地の変貌……………	102
5. 土地利用とその環境……………	41	1) 写真で見る移り変わり……………	102
1) 生活環境の中の寺社……………	41	2) 空中写真に見る移り変わり……………	108
2) 開発と環境……………	47	11. 未来へのメッセージ……………	114
3) 土地利用と環境……………	53	展示資料一覧……………	116
4) 字名に探る生活環境……………	54	主な参考文献……………	118
		協力機関・協力者……………	119

例 言

1. 本書は、平成13年10月6日から11月23日までを会期とする「長野盆地の10万年—暮らしと環境のメッセージ—」の展示解説図録です。
2. 図表・写真の番号は、展示資料番号とは異なり、各章ごとに番号をつけています。
3. 第5章と第7章に掲載した地図は、『長野市誌 第8巻・第9巻 旧市町村史編』の地図に加筆して、使用しました。
4. 本書の作成に当たり、内山 節先生（哲学者）、滝澤公男先生（元長野県土地改良史編集委員長）より玉稿を賜りました。ご好意に深く感謝いたします。
5. 資料の提供はじめ、ご指導ご協力いただいた方々のお名前は巻末に掲載させていただきました。深く感謝の意を表します。
6. 第10章1) 明治・昭和の写真資料の提供者は巻末に掲載させていただきました。
7. 第10章2) に掲載した写真は、国土地理院長の承認を得て、米軍撮影の空中写真を複製したものです。（承認番号 平13関複、第220号）
8. 期間中、都合により展示資料を変更することがあります。
9. 本書の執筆分担は下記の通りです。編集は山口が担当し、館員がこれを補助しました。
第1章・第2章2)・第8章1)・3)・・・島山幸司、第3章・第4章・第11章・・・山口 明、第5章・第6章1)・第10章2)・・・降幡浩樹、第6章2)・第7章・第10章1)・・・細井雄次郎、第9章・・・大蔵 満、第2章1)・3)・第8章2)・4)・・・小林規甫

開館20周年にあたって

1981年（昭和56年）9月23日、長野市立博物館は開館しました。当日は開館までにご協力いただいた多くの方々をお招きし、賑やかに開館の式典を開催、同時に1000人を超す市民の皆さんの来館で賑わう1日を送りました。

長い間続けられてきたこの地方の生活と自然との関わりについても学術研究の成果を市民の皆さんにわかりやすく展示し、勉強していただくとともに、その中から「未来へ向かって新しい長野市民の文化を創造していく」ことを博物館の使命として掲げ、学問と市民の関係をより緊密にすることを推進してきました。

その間、自然科学の部門を充実するため、1985年（昭和60年）に茶臼山自然史館を分館として開設し、この長野盆地が形成されるまでの資料を展示し、身近な化石などを通して動物の進化などを見ていただきました。

この中で20年間に進められた研究の成果の中には、大型開発事業のための埋蔵文化財調査の結果、千曲川や犀川、更にその支流の小河川の氾濫で堆積した5m地下の地中から約5000年前の遺跡遺物が発掘されたことが注目されています。この平坦地が洪水などで堆積した土砂に埋まりながらも、人々の生活は連綿と続けられてきたことを物語る資料でした。そして、それは周囲の自然環境に同化しながら生活する文化を持った先人の素晴らしさを今に伝える事実でした。

今地球上で人類に課せられた最大の課題は、環境問題です。少なくとも数十年前まではこんな問題は存在しなかったでしょう。これから私たちができることは、先人の自然との関わりを学び、将来に残せる教訓を思考することではないでしょうか。

今回の特別展示「長野盆地の10万年－暮らしと環境のメッセージ」は、そのために何かお役に立てたらと企画した開館20周年の記念事業です。多くの皆様のご来館をお待ちしています。

2001年10月6日

長野市立博物館長 山口純一